

様式

若手研究者育成支援費に係る研究成果報告（ホームページ用）

	(所 属)	(職 名・学 年)	(氏 名)
研究者	京都府立大学文学部	講師	出口 菜摘
研究の 名称	モダニズム詩と視覚芸術の影響関係		
研究のキ ーワード	モダニズム詩、視覚芸術、テクノロジー、映画		
研究の 概要	<p>本研究は、20世紀初頭のモダニズム詩と視覚芸術、特に絵画との影響関係について考察するものである。主な研究対象となるのは、ウィリアム・カーロス・ウィリアムズ（1883-1963）とE. E. カミングズ（1894-1962）、T. S. エリオット（1888-1965）。彼らの詩・詩作法と当時の視覚芸術との影響関係に焦点を置き、詩を文学という領域からのみ研究するのではなく、他の芸術運動との関係で捉えることで、モダニズム詩を再考する。</p>		
研究の 背景	<p>先行研究として、1994年にケンブリッジ大学出版から刊行されたHalter Peter著 <i>The Revolution in the Visual Arts and the Poetry of William Carlos Williams</i>。さらに、1969年にプリンストン大学出版から刊行されたBram Dijkstra著、<i>Cubism, Stieglitz, and the Early Poetry of William Carlos Williams</i>などがあり、現代絵画とモダニズム詩の親近性について明らかにされている。本研究は、そこにテクノロジーという要素を接続するものである。</p>		

研究手法	<ul style="list-style-type: none"> ・モダニズム詩の作品研究（手法や内容において絵画との関連が強いと思われるものを取り上げ、先行研究における評価、社会的・文化的背景の研究を行う） ・アメリカ合衆国ニューヨーク市において、関連資料の収集・調査を行う。 ・上記の研究活動を通じて得られた知見を、研究報告書として論文にまとめる。
研究の進捗状況と成果	<p>モダニストの詩だけではなく当時の絵画もまた、「効率」という価値基準や「機械」の美学と切り離して考えることができない。そこで段階的研究として、映像テクノロジーである映画が、詩人の感覚や世界の認識方法にどのような変化をもたらしたかを考察し、モダニストらの作品・詩論とテクノロジーとの相似関係を明らかにした。（論文として報告。「研究発表」の項参照）</p>
地域への研究成果の還元状況	<p>「アメリカ現代詩と絵画」をテーマにした「欧米言語文化演習Vb (アメリカ)」を2010年秋に開講する予定である。この演習では、詩と絵の比較を通じて「言葉」は何を現出させることができるのかを考察する。</p> <p>シラバスに掲載した具体的な授業内容は、「イマジズム詩」「ウィリアム・カーロス・ウィリアムズとチャールズ・ディームス」「マーク・ストランドとシュルレアリスム」「ジョン・アシュベリーと抽象表現派」など。</p>
今後の期待	<p>次の課題として、プレジジニズムの画家であるチャールズ・ディームス（1903-1935）の絵をもとにウィリアムズの作品解釈を行う。以下、ディームスの「私は金色の数字の5を見た」（1928）にはウィリアムズの詩が添えてあり、両者の影響関係を示す一例として挙げられる。</p> <div data-bbox="687 1507 1059 1946" data-label="Image"> </div> <p>最終的に本研究は、アメリカの写真家であり近代美術の立役者</p>

	<p>であるアルフレッド・スティーグリッツ（1864-1946）主幹の雑誌『カメラ・ワーク』の研究にまで繋がると考えている。</p>
<p>研究発表</p>	<p>本研究活動で得た知見の一部をもとにまとめた論文「『ブルーロックの恋歌とその他の観察』『三月兎の調べ』—映画的世界の見方と表し方」は、2010年11月刊行の日本T. S. エリオット協会記念書籍（『タイトル未定』研究社出版）に掲載される予定である。</p> <p>また、2010年度秋には、「アメリカ現代詩と絵画」をテーマにした「欧米言語文化演習Vb（アメリカ）」を開講する予定である。</p>